



藤石 豊 議員

動き出した合併への意識

全力で推進していく

問 私の市町村合併への想いは今から三年半前に振り返ることになります。平成十五年六月の定例議会において同年七月に設置された須恵・宇美・志免の任意合併協議会に伴う問題点についての一般質問から始まり、この合併問題について議会及び、また地域での集いや会議ごとに言い続けてきました。

その間、平成十六年三月、三町の任意協議会から離脱し法定協議会への移行を断念する結果となりました。

そして今年、粕屋中南部六町が県の合併推進構想の対象となり、首長の働きで各町一名の職員を派遣した六町合併研究会

須恵町国際交流推進委員会の設置を願う

住民有志の発意に期待

事務局を立ち上げ、平成十九年九月目標の合併協議会設置に向け話し合いが持たれる事となっております。

住民の意識が高まることを期待します。

町長の決意は！

答 中嶋町長 粕屋六町の枠組みで合併をするということについて、全力で推進していくというのは当然のことと思っています。

今弱くなっている行財政の改革で強い基盤をつくり上げるためには、その合併が最大の手段であると考えています。

不安というのがあるとありますが六町合併ということであれば大きな希望が持てるという気持ちです。



モンゴルの子どもたちとの交流会 (須恵東中学校)

問 先日、志免町のシームイトで国際交流パーティーに参加し、アジアを中心に世界各国の人々とふれ合いを体感することができました。

言葉は分からなくとも心は通じ合うものです。福岡はアジアの拠点都市として国際交流に力を注いでいます。

答 中嶋町長 教育委員会・行政として設置するというものではなくて、あくまでも住民有志の皆さんの発意によって民間団体、NPO、そういった形での設置を期待しています。

教育委員会としてできるだけの手伝いはしたいと考えています。

議長通信

命

平成十八年を漢字一文字で表すと「命」となりました。

毎年十二月にその年の世相を表す漢字として京都の清水寺で発表されるのですが、秋篠宮家の長男悠仁様の誕生で、「生まれた命」に注目が集まる一方、いじめ・自殺や虐待、飲酒運転・事故など痛ましい事件が相次ぎ「一つしかない命の重み大切さを痛感した」のが理由だと言います。

12月議会を終えて



長澤 誠司 議長

◆全員協議会◆
全員協議会を一般質問終了後に開催し、三月・六月・九月各定例会号に掲載していただきました議員定数削減案について協議を行いました。

その結果、最終日に須恵町議会議員の定数を定める条例の一部を改正す

る条例が十二名の議員提案として提出され、前頁のとおり可決されました。平成十九年四月の選挙から適用されます。

町が進める「行財政改革」に議会自ら範を示すことができました。

◆開かれた議会運営を◆
今後は常任委員会の数・議会運営委員会の人数・

委員会の審査方法等の見直しを検討していきます。

前向き・建設的な議会、開かれた議会運営に努めてまいります。

また、中南部六町合併問題等山積みする諸問題について議会も努力してまいりますので町民皆様の一層のご理解ご協力をお願いいたします。

町長報告



中嶋 裕史 町長

◆須恵町立中学校の学校給食◆
平成十六年に発足した第二次須恵町学校給食問題調査委員会より、十八年十一月に「建議書」の提出を受けました。

この中では、自家製弁当・弁当給食・パン食の三種類から昼食を選べる弁当給食の実施が当町中学校には最適であると建議されています。

当町としましては、この建議内容を十分に踏まえ給食実施に向けて準備に入らなければならぬと考えています。

しかしながら、当町は行財政改革の最中にあり、

また、平成二十二年三月を最終年度とする合併問題も粕屋中南部六町で年明け早々から取り組んでいかなければなりません。ここ数年は慎重にも慎重を期し、給食問題のみ突出して実施するのではなく当町の行末を見つめながらあらゆる問題に対処していきたくと考えています。

◆須恵町の教育支援◆
平成十八年三月に幼稚園・保育所一元化審議会から建議書の提出を受け、建議内容を真摯に受け止め、これからの子育て教育支援のあり方について

の実施計画を策定しました。

この計画書の理念は、子育ての第一責任者はあくまでも保護者でありそれを支援する立場として行政・地域社会・小学校・中学校・保育所・幼稚園・関係機関があり、保護者と連携・協力して須恵町の子どもを育てていくというものです。

全体的な計画として、十九年四月には第二保育所の民営化実施と、幼稚園・保育所一元化事業の取り組みとして西幼稚園と第一保育所を統合し「認定子ども園」として運営を行うべく準備に入っています。

建議書で示された保育に欠ける子どもを欠けない子も同一の環境で保育環境を受けられる混合クラスでの運営を行い「食育」をとおして人に感謝する心・我慢できる心・譲り合う心・助け合う心を育てていきたいと考えています。